

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：32660

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011 年度～2012 年度

課題番号：23820050

研究課題名（和文） 近代北欧文学における「脚部障害」の表象—セルマ・ラーゲルレーヴを中心に

研究課題名（英文） The representations of “lameness” in modern Norse literature, particularly Selma Lagerlöf Mårbacka's

研究代表者

中丸 禎子 (NAKAMARU TEIKO)

東京理科大学・理学部・講師

研究者番号：50609287

研究成果の概要（和文）：

本研究は、これまでの日本において研究対象となることが少なかった北欧文学の主要作品の中から、ラーゲルレーヴ『モールバック』(スウェーデン、1920) およびアンデルセン『人魚姫』(デンマーク、1837) を取り上げ、「脚部障害」モチーフに着目して分析することで、これらの作品をアカデミックな視点から批判的に論じ、近代北欧文学の枠を超えて、古代ギリシアに始まるヨーロッパ文化史の中に位置付けた。

研究成果の概要（英文）：

In this project, I examined specimens of modern Norse literature, namely Swedish author Selma Lagerlöf Mårbacka's (1920) and Danish author Hans Christian Andersen's The Little Mermaid (1837). I critically analyzed the representations of “lameness” in the two works, and explored their place in not only modern Nordic literary history but also European cultural history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	800000	240000	1040000
2012 年度	700000	210000	910000
年度			
年度			
年度			
総計	1500000	450000	1950000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：北欧文学、ラーゲルレーヴ、脚部障害、他者排除

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 日本における背景

北欧文学は、明治時代以降の日本において、多くの読者を持ちながら、これまで、アカデミックな研究は、ほとんどなされなかった。北欧が紹介される際には、自然の美しさや、福祉国家や女性の社会進出など、制度の中でうまく機能している面のみが過度に強調されてきた。

## (2) スウェーデンにおける背景

スウェーデンでは、研究代表者が主な研究対象とする作家ラーゲルレーヴは、「国民作家」として称揚されると同時に、「童話作家」として研究対象から外され、長く批判的な論考は出てこなかった。しかし、1980 年代に、ジェンダー論の観点から、アカデミックな研究がなされるようになり、作家の記念イヤー

が続いた 2000 年代に、多くの成果が刊行された。また、北欧における北欧文学研究では、北欧文学をヨーロッパ文学に位置付ける試みが、近年始まっている。

北欧での最新の研究成果を取り入れ、日本に紹介すると同時に、北欧の研究者には持ちえない視点からラーゲルレーヴを批判的に考察する必要性を感じたことが、研究開始当初の背景である。

## 2. 研究の目的

上述した背景において、研究代表者は、アカデミックな視点から、日本社会に対して、北欧の知られざる側面を批判的に提示し、スウェーデン社会に対して、ラーゲルレーヴの新たな側面を提示する必要性を感じた。

本研究の目的は、「脚部障害」の表象研究を通じて、近代北欧における他者排除のあり方を明らかにすることである。本研究では、寝たきりの病人、まっすぐに歩けない酩酊者・狂人、神がかりの預言者、定住しない放浪者、神話・伝説の中でしばしば脚部障害者として描かれる鍛冶屋・大工・錬金術師、人魚やケンタウロスなど半人半獣の架空の生き物などを、広く脚部障害者のヴァリエーションとしてとらえる。脚部障害者は、ヨーロッパにおいて、古くから、キリスト教モラルを逸脱する存在として表象されてきた。新約聖書には、イエスが、脚部障害者に「起き上がり、床を担いで歩け」と言い、病をいやしたという、現在のヨーロッパでも広く知られるエピソードがある。また、悪魔は「山羊脚」、魔女は、背中が曲がり、杖をついた歩行の不自由な老婆として表象される。

19 世紀・20 世紀のヨーロッパ文学における障害者排除は、女性の抑圧、ナチスによるマイノリティ排除・優生学による障害者排除と深く関連している。本研究は、こうした脚部障害者像の背景を、広くヨーロッパの神話・民話・伝説、歴史的事実、文化に求め、その起源を文学における脚部障害者像から考察する。

## 3. 研究の方法

上述した脚部障害者イメージへの批判的意識を背景に、本研究では、近代北欧文学における脚部障害者像を、①ジェンダー論的観点、②キリスト教批判的観点から分析した。他の障害者やマイノリティではなく、特に脚部障害を採り上げた理由は、脚部障害者のヴァリエーションの多くが、ラーゲルレーヴ作品に頻出するからである。自伝『モールバック』には、実際に左脚が不自由だった作者が、全く歩くことのできなかつた幼少期に、奇跡

によって歩けるようになった（その後も、歩行に不自由はあったものの、自力で日常生活が送れるようになった）というエピソードが書かれている。一方、酩酊者、狂人、放浪者、鍛冶屋も、ラーゲルレーヴが好んで描いたモチーフである。一見関連の薄い諸モチーフを、脚部障害者モチーフのもとに関連付けることで、ラーゲルレーヴ文学に対する新たな視点を得ることを目指した。また、①②の観点を盛り込むことで、「女性解放運動の先駆者」「平和主義作家」として専らポジティブな評価を受けてきたラーゲルレーヴを批判した。

### (1) 研究の方法

#### ①ジェンダー論的観点

脚部障害者の表象は、女性の抑圧と深くかかわっている。19 世紀・20 世紀の少女小説では、しばしば、障害（脚部麻痺）が、女性の家への隷従の比喩として描かれた。近代市民社会における良妻賢母親と、女性脚部障害者の表象を比較・分析する。

#### ②キリスト教批判的観点

ナチスは、ユダヤ人をはじめとする異民族、障害者、ホモセクシュアル、浮浪者などを、いずれも「劣等」と見なして排除したが、その嚆矢となったのは、優生学に基づく障害者の断種および安楽死だった。障害者排除は、ナチスの残虐性のみならず、ヨーロッパ全体の問題としての他者排除、さらには福祉国家（その成立には優生学が深くかかわっている）という、一般的にはポジティブにとらえられることの多い国家形態を長く背後で支えた「負の部分」を反映している。

排除される障害者イメージの古い形と考えられるのは、「山羊脚」の悪魔や杖をついた魔女といった、キリスト教における他者イメージである。悪魔・魔女の集会は、ユダヤ教の安息日と同じ「サバト」という名で呼ばれるなど、すでに形成過程に反ユダヤ主義が深くかかわっているとされる。本研究では、ホロコーストをナチズムによる突発的なユダヤ人排斥としてとらえるのではなく、一方では福祉国家形成に至るヨーロッパの歴史に位置付ける立場から、文学作品の中で様々な表象されてきた他者の一例としての脚部障害者像を考察した。

### (2) 対象作品

#### ①ラーゲルレーヴ『モールバック』（スウェーデン、1920）

作者の自伝的作品で、作品のハイライトは、幼少期にの主人公が、脚が麻痺から奇跡的に回復する場面である。脚部障害者の表象に着目することで、女性解放の先駆者として知られるラーゲルレーヴを、女性作家による女性排除の例として、また、障害者自身による障

碍者排除の例として、批判的に考察する。

②アンデルセン『人魚姫』(デンマーク、1837)  
半人半魚の人魚を脚部障碍のヴァリエーションと捉え、古代ギリシア以来のヨーロッパ文学における人魚表象の変遷をたどりながら、アンデルセン作品における他者排除のあり方を考察する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 本研究の成果

###### ①ラーゲルレーヴ研究

日本独文学会で、学会発表④を行った。ここでは、まず、民族主義運動とナチズムにおけるラーゲルレーヴの受容を紹介することで、ドイツ文学におけるラーゲルレーヴ研究の位置づけを紹介し、次いで、女性作家による女性排除・障碍者による障碍者排除の例として、ラーゲルレーヴ『モールバック』を分析した。

雑誌論文①では、日本近代文学におけるラーゲルレーヴ受容の一例として、森鷗外の「牧師」翻訳と、鷗外の近代批判の関係を論じた。

###### ②アンデルセン研究

図書①では、一般読者を対象に、古代ギリシアのセイレーンに始まるヨーロッパ文化における人魚像の変遷と、アンデルセン『人魚姫』がその変遷をどのように描き、ナポレオン戦争以降のデンマークで国民作家となったアンデルセンの志向をどのように反映しているかを紹介した。

北ヨーロッパ学会(文学に限らず北欧学の専門家が対象)における学会発表②と、日本独文学会における学会発表①では、「人魚姫」に関して、ドイツ文学研究とは別の観点を提示することを試みた。これまでのドイツ文学研究では、「人魚姫」は、専ら、A. ドイツ・ロマン主義研究(その多くは、「水」と「女性性」を関係付けて論じている)に周縁的に位置づけられるか、B. ホモセクシュアルであったアンデルセンのセクシュアリティの表象として研究されてきた。これに対し、研究代表者は、デンマークの歴史的・社会的背景を指摘することで、B. のように、アンデルセン個人の伝記的事実のみを反映とした見方を批判した。また、デンマーク語原文におけるドイツ語訳との違いや、北欧の伝説における男性の人魚の存在を指摘することで、A. B. がともに前提とする人魚の女性性の自明性を批判した。これらを通じて、ドイツ文学研究の分野で研究されてきた「人魚姫」に対し、北欧文学研究の立場から新たな観点を提示した。

##### (2) 今後の研究への展望

上記の研究を通じて、研究代表者は、今後の研究につながる新しい展望を得ることができた。

北欧文学は、これまでの日本において、研究そのものが極めて少なく、研究がなされる場合にも、その多くは、北欧という枠内でのみなされてきた。そのため、多分野の研究者にとって、北欧文学研究は、自身の研究との関連が少なく、関心を持たれにくい分野であった。しかし、本研究を通じて、研究代表者は、地理的にはドイツ、東欧諸国、ロシアと国境を接し、文化的にはフランスから多くの影響を受けた北欧の多文化的な事例に数多く触れた。そして、今後、北欧文学そのものの研究をより広い視点のもとで発展させるという理想的な理由からも、北欧文学研究にヨーロッパ文学研究の中で存在感を持たせるという現実的な理由からも、北欧文学をヨーロッパ文学に位置付ける試みがますます必要となることを痛感した。

###### ①アンデルセン研究

こうした点を踏まえ、研究代表者は、ドイツ文学、フランス文学、英露比較文学、日本文学、北欧史の各研究者を招聘し、「人魚姫」を共通テキストとしたプロジェクトを発足した。同プロジェクトで、研究代表者は、研究会発表①②を行い、2013年度から18年度の科研費基盤研究(C)に採択された。

###### ②ラーゲルレーヴ研究

三部から成る研究代表者の博士論文(2010年3月博士号取得)は、それぞれの部の関連性が薄いという課題から、これまで書籍化を見送ってきた。本研究を通じて、研究代表者は、ジェンダー論的観点とキリスト教批判的観点を前面に押し出すことで、それぞれの部を強く関連させる展望を得た。現在は、その展望のもと、博士論文を大幅に加筆・修正している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①中丸禎子「森鷗外の北欧受容——ラーゲルレーヴ「牧師」の翻訳と近代観の転換」、『詩・言語』78号(東京大学大学院人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究会)、2013年7月刊行予定(査読有、掲載確定)

※このほか、学会発表①および②をもとにした雑誌投稿論文を現在執筆中である。

〔学会発表〕(計4件)

①中丸禎子「アンデルセン『人魚姫』における脚部障碍の表象—フケー『ウンディーネ』との比較」、日本独文学会春季研究発表会、2013年5月25日（審査有）

②中丸禎子「越境する人魚—ハンス・クリスチャン・アンデルセン『人魚姫』と『アウネーテと人魚』」、北ヨーロッパ学会全国大会、2012年11月10日 大会（審査有）

③中丸禎子「森鷗外の転換とラーゲルレーヴ受容—「牧師」、スウェーデン語原文、およびドイツ語訳の比較」、日本比較文学会第50回記念東京大会、2012年10月20日（審査有）

④中丸禎子「セルマ・ラーゲルレーヴ『モールバック』における「脚部障碍」の表象—優生学思想への関心を背景に」、日本独文学会秋季研究発表会、2011年10月15日（審査有）

〔図書〕（計1件）

①中丸禎子「人魚姫のメタモルフォーゼ」石井正己編『子守唄と民話』、三弥井書店、2013年3月、pp.149-164（共著・依頼）

〔その他〕

〔研究会発表〕（計2件）

①川島隆・中丸禎子「足／脚とジェンダーキース『起きて、床を担いで歩け』を考える」、プロジェクト人魚第6回研究会、2013年2月19日

②中丸禎子「『人魚姫』の諸テーマ」、プロジェクト人魚第1回研究会、2011年12月17日

〔ホームページ〕

[http://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru\\_teiko/index.html](http://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru_teiko/index.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中丸 禎子 (NAKAMARU TEIKO)

研究者番号：50609287

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：